

【みなかみ町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申（令和3年1月）及びそれ続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革につなげることが求められています。これまでの先進事例等による研究から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と「ICT活用」はベストミックスであるといわれるように、これからの実現において、1人1台端末の活用は重要な役割を担っています。

みなかみ町では、第2次みなかみ町総合計画後期基本計画の基本目標「豊かな心と文化を育むまち」の主要施策として「学校教育の充実」を掲げており、児童生徒が豊かな心と高い知性、健康な身体をもとに活力ある人間に育つ事を目指します。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を踏まえ、令和2年度に学校ネットワークの再構築をし、1人1台端末1,200台（chromebook）及び電子黒板75台を整備し、学校現場における強化や学習場面に応じた情報の収集・理解・整理・発信・共有及び個別の学びツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図るとともに、1人1台端末の家庭への持ち帰りを可能とし、長期休業中の課題やデジタルドリル等を用いた家庭学習など、様々な場面で活用することで児童生徒の学習意欲の向上及び学習環境の整備に努めた。令和4年度には「学習支援ソフト検討委員会」を発足し、学習支援ソフトの見直しを行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染等により学校に登校できない児童生徒の学びを保障するため、自宅に通信環境が整備されていない児童生徒については、1人1台端末の持ち帰りに加えてモバイルルータの貸し出しを行いました。

また、令和5年度には「ICT活用促進委員会」を発足し、管内小中学校の活用方法の検討や情報共有を行いました。

その結果、学校間での差はあるものの一定以上の活用が図られています。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和2年度に整備した1人1台端末は、導入から4年が経過し、バッテリーの劣化等の諸問題が生じており、日常的な授業等の利活用に支障が出かねない状況であることから、より高度なICT環境下での教育を推進し、1人1台端末環境を引き続き維持するため、令和7年度に約1,000台の端末更新を行います。

委託業者によるGIGAスクールヘルプデスク業務を継続し、「主体的・対話的で深い学び」の実

現に向けた授業改善にいかすため、端末を日常的に活用できるよう、教職員向けの研修を充実させ、ICT活用指導力の向上を図ります。

1人1台端末の日常的な利活用を継続するとともに、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、「不登校児童生徒の授業への参加・視聴機会の提供」、「希望する児童生徒への教育相談の実施」、「外国人児童生徒に対する学習活動支援」、「障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じた支援」など、多様な場面での活用を検討します。

ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、既に導入している指導者用デジタル教科書に加え、学習者用デジタル教科書等のデジタル教材を導入し、授業等において効果的に活用します。

また、児童生徒が「自分で調べる場面」、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「教職員と児童生徒がやり取りする場面」、「児童生徒同士がやり取りする場面」、「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」の5つの場面における具体的な活用方策について、課題の洗い出しや活用事例の情報共有など、学校と連携を図りながら検討し、実行することで学校教育の質の向上を図ります。